

飯沼会長と森川会津支部 長をお迎えして

下関支部長 吉井克也

十月三十一日、飯沼会長が森川会津支部長、奥様の楊子氏とその友人の島幸子氏同伴の上久しぶりに山口県に御来県されました。その目的の一つは、「飯沼貞吉長州養育説」を強化するための根拠となるものを見つけないということでした。檜崎頼三ご末孫の松葉玲子さんの除籍簿や貞吉が美祢市小杉に移動する途中、滞在したと言われる萩市佐々並に残る貞吉の足跡、美祢市の人々が、貞吉の通った道を「恩愛の道」と名付けて大切にしてくれていること等、新しい発見も多々あったと聞きしてありますが、その成果は、「会津人群像」に掲載されるので、楽しみにしております。

【十月三十一日】

新山口駅前で合流し、まず、美祢市長表敬訪問に向かう。現篠田市長は、美祢市小杉に「恩愛の碑」を建立した時の副市長であり、この事業推進に当たり、全面的にご支援を頂いた方である。市長になられてからも、恩愛の碑整備活動には、草刈機を担いで毎年参加されている。同席された南教育長もこの地で

営まれた、長州藩士檜崎頼三と白虎隊士飯沼貞吉の人間愛の物語に深く共感され、教育委員会を挙げて、恩愛の碑の護持に努めて頂いている。しばし、恩愛の碑除幕式当日の思い出話に花が咲いた。その後、小杉に直行したが、飯沼三兄弟が記念植樹された「会津見知らず柿」がたわわに実を付けて出迎えた。高見フサ口伝や檜崎屋敷の様子、恩愛の道などについて説明し、御一行は、宿泊場所の北長門リゾートホテルに向かわれた。

【十一月一日】 角島大橋を渡り、角島灯台を見た後、萩にむかわれる。藩校明倫学舎で、「白河踊り」の発掘者である中原正男氏と合流、氏のガイドで、唐樋の地藏堂（白虎隊自刃の石版画）や大書院にある奥平謙輔の墓（山川健次郎養育）を参拝される。その間、地藏堂の護持に長年、尽力を頂いている原田靖子氏とも再会、山本貞寿先生の記念館（原田氏宅）を訪問。さらに萩市役所で目的の一つ、檜崎家ご末孫に關係する書類を入手の後、下関に向かわれる。

下関では、下関歴史博物館で吉井と合流し、館長にあいさつの後、万骨塔に参拝された。この塔には、昭和八年の建立当初から、白虎隊十九士と廣澤安任の霊石が安置されているが、平成二十三年に、飯沼一元氏と当時の長府博物館友の会の会長金田満男氏のご尽力に

より、山川健次郎の霊石が安置された。次に飯沼貞吉初任の地（現田中絹代文化館）を訪れたが、夕闇が迫り、外観のみを眺めて、交流会の「下関海峡ビュー」に向かった。

【交流会】 交流会には、御一行四名と下関支部八名、さらに、飯沼さんにぜひ会いたいと、急遽萩から来られた山影司氏の十三名で行いました。再開を喜び会うとともに、この度の訪問の目的、本部や支部の状況報告、「貞吉長州養育説」に対する様々な反響など、具体的に今後の活動に向けて意義ある情報交換と交友の場になりました。締めくくりに、河本下関支部事務長のリードで「花の白虎隊」と「愛しき日々」を合唱、再開を約束して会



を閉じました。